# 死後の世界、或いは来世

羽黒アキ

平成二九年三月一五日

## あらすじ

「この世界は間違っている」

昼下がりのカフェテラス、漠然(ばくぜん)とそう考えていた女に、一人の男が話しかける。彼は哲学者を名乗り、この世界についての仮説を論じ始める。

## 登場人物

**女**　本作の主人公。

**男**　自称哲学者。

**刑務官**　性別不問。本作の種明かし要員。

**刑務官2**　右に同じ。兼役可。

# 利用規定

https://null.0am.jp/script.php を参照ください。

ニコ生、ツイキャス、声劇会議で演じられる場合は報告不要です。その他の場合は一方ください。

録音・録画される場合は、完成品を頂けると非常に励みになるばかりではなく、場合によっては次作へのインスピレーションとなるため非常に喜びます。また、――居ないとは思いますが――**有償案件、営利・宣伝活動の一環に用いられる場合は必ず事前にご相談ください。**

## 作者連絡先

Skype: gioseffo

Twitter: @Aki_HAGURO

メール: aki.haguro@gmail.com

だいたい掲載順に気づきやすいです。

女M　この世界は何か間違っている。そう思ったことはないかしら。
私はいつも思ってる。目的も与えられず、ただ日々を消費する無意味な世界。
あぁ、抜け出したい。

# 1　昼下がりのカフェテラス

男　隣、よろしいですか？
女　え？えぇ、いいですけど……。
男　ありがとうございます。見ての通りここ以外空いてなくて。
女　(あたりを見回して)そうだったんですか。
男　こうやってお声掛けしたのも何かの縁だ。よければお話しませんか？
女　面白いお話なら。
男　そうですねぇ。こういうのはどうでしょう。世界5分前仮説。この世界は太古の昔から存在したのではなく、5分前にその状態でいきなり出現した、というものです。
女　あなた、哲学者(てつがくしゃ)さん？
男　ええ。
女　急に胡散臭(うさんくさ)く感じちゃうわね……。

確かに面白いけれど、そういう方面に疎(うと)い私でも知ってる有名なお話よね。

男　そうですか……。では、これもご存知ですか？

この世界は実は、より高次(こうじ)の世界が実行しているシミュレーションなんじゃないか。

女　知ってるわ。ネットで読んだもの。でも、反証(はんしょう)可能性のない、言ってみれば頭の体操みたいなものじゃない。

まさか「ハツカネズミがその高次(こうじ)の世界からの使者(ししゃ)だ。」なんて言い出すんじゃないでしょうね……。

男　なかなかに貴女も哲学者の素養(そよう)がありますねぇ。

女　褒(ほ)められてる気がしないけど、いいわ。ありがと。

男　でも、なかなかに考えてみると、「もしかしたら……」って思っちゃうんですよねぇ。

プランク時間という概念(がいねん)があります。時間は連続しているのではなく、プランク時間というそれ以上細分化できない不連続な切片の集合、つまりは、パラパラ漫画みたいなものであるという概念(がいねん)が物理学で提唱されています。

さてこの概念(がいねん)、何かと結びつけると、面白いと思いませんか？

女　……？

男　コンピュータです。正確に言うと、そのＣＰＵですね。１クロックにつき１回、演算(えんざん)を行います。

女　どういうこと？

男　つまり、プランク時間の概念(がいねん)をシミュレーション仮説と組み合わせると、プランク時間とはこの世界をシミュレートしているコンピュータの1クロックにあたるのではないかと考えられたりします。

女　面白い理論武装(りろんぶそう)だけど、結局何の証拠も無いわ。

男　そうですね。シミュレーション仮説を証明するには、この世界から抜け出す以外にはないですからねぇ。

女　？

男　この世界から抜け出すことができた時になって初めて、「あぁ、さっきまでの世界はシミュレーションだったんだ。」とわかるわけです

女　そうね。でも、できないわ。

男　(女のそばに寄り)試してみましょうか。

女　はい!?

男、女が着ている服の内側に手を入れ、女の胸に手を置く。

女　ちょっ……と、いきなり胸なんか触って何してるのよっ!!

男　試すんですよ。

女　意味わかんない！公衆の面前でこんなことして、タダで済むと思ってるの!?

男　大丈夫ですよ。ここは貴女だけの世界。そして私は執行人。周囲のモブは私達のことなんか気にしません。

女　やめて……ちょっと、痛い……痛いっ！

男の手が皮膚を突き破り、女の体内に入り込む。

女　（シーンの最後、断末魔を上げるまでうめき続ける）

男　痛いでしょう、内臓を直接触られるというのは。いやぁ、何度味わってもいい感触です。そしていい声で鳴いてくれる。実にいい。この仕事に就いて良かったと思える瞬間です。

長めの間。女のうめき声を男が堪能している。

男　さて、名残惜しいのですが、そろそろ終わりにしましょうか……。

女　（断末魔）

# 2　病室

刑務官　お目覚めですね。お勤めご苦労様です。

女　え？はい……？

刑務官　自分の置かれている状況が理解できないのですね。ご説明しましょう。

女　……お願いします。

刑務官　ナンバー38b48b、貴女(あなた)は「死刑の後(のち)懲役10年、更に死刑、リセット」の刑に処せられ、たった今刑期を終えました。

女　……ごめん、意味わかんない……。

刑務官　そうですよね。説明します。貴女……と言うより貴女の前世は、この世界で犯罪を犯しました。それは大罪(たいざい)でした。死刑でも生温(なまぬる)いような。

この世界では、「死刑は残虐(ざんぎゃく)」だという批判がありました。犯罪者と言えど更生(こうせい)の機会を奪うのは酷(むご)いというものです。一方で「牢獄(ろうごく)に閉じ込めているとは言え犯罪者の生活を国が保証するとは何事だ」という批判も。

それらを躱(かわ)すため、重大な犯罪を犯した人間を次のように扱うことにしました。

まず死刑。対象者の脳を摘出します。これは2番目の批判に対する答えです。

次に懲役。摘出した脳を単分子カッターで連続切片化し、高分解能のスキャン画像を得、それを仮想空間上で再構築し、仮想現実にて服役させます。死刑でも生温いとされた者に対する罰です。あちらの世界での貴女の26年の人生のうち、最後の10年間がその刑期でした。16歳の状態でシミュレーション世界に放り込んだわけですね。

最後にリセット。仮想空間にて刑期を終えた者の脳を電子的に復元し、機械の体に入れて、新たな人生を歩んでもらうというものです。

貴女の場合は特に重大な犯罪であったとして、仮想空間でも苦痛を伴う死刑が付加されていました。

女　……よくわからない。

刑務官　そうですね。そのほうが幸せだと思います。とにかく貴女は刑期を終えて、新たな人生を歩むんです。お名前も新しく考えたんですよ。

番号が38b48bだったので、翡翠にしました。ちょうど翡翠色のカラーコードだったので。安直すぎました？

女　いいわ。それで、いい。

間

女　ところで私は、何をやったの？

刑務官　貴女……前世の貴女の罪状は、婚外交渉です。

女　……はい!?

刑務官　セックスフレンドがいたんです。

女　……それだけ？

刑務官　リセットしたばかりなのでわからないでしょうね。
　この世界の人口は西暦八五二〇年現在、72兆人です。

女　72……兆!? 億じゃなくて!?

刑務官　72兆人です。その為、婚姻(こんいん)および出産を統制(とうせい)しています。貴女はその禁に反して、セックスをした罪に問われました。窓を開けますので現実を御覧ください。

女　うじゃうじゃして……あれが全部人間？
　(取り乱して)嫌よ！こんな世界、嫌！

刑務官　ああっ、あまり急に動いてはいけません。リセットしたてで肉体が脆いのですから。

女　いいことを聞いたわ。ちょうど窓も開いているし、こんな世界からは抜け出してやる。

　女、言い終わるや、開いていた窓から飛び降りる。飛び降りたときの息遣いと悲鳴が聞こえる。

## 3　前シーンと同様の病室。

**刑務官2**　お目覚めですね。お勤めご苦労様です。

**女**　え？はい……？

**刑務官2**　貴女はたった今、「死刑の後、懲役……(遮られる)

**女**　(遮って)嫌あああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああああ!!

## 4　終劇

**男**　(観客、或いは聴衆に向かって)この世界は間違っている。そう思ったことはありませんか？だったら別の世界に向けて一歩を踏み出してみる事もできますよ。ほら、別の世界へのドアは、その窓の向こうに……。

終劇

# あとがき

このお話は、いくらか前、シミュレーション仮説についての記事をネットで見たときに思いついたものです。もともとのアイデアは「この世界がシミュレーションだとわかった。何とかして現実の世界に行こうとする。どうにかして辿り着いたと思ったら、そこもシミュレーションだった。」というものでした。また、台本ではなく小説として発表するはずでした。

ラジオドラマ……はもう古いですね、ボイスドラマ、或いは声劇の台本として起こす場合、(舞台ほどではないにしろ)色々と制約があるのと、また私の「話をふくらませる能力」が偏っていることから、最終的にこのような味付けとなりました。演者様にも楽しんでいただけたなら幸いに存じます。

最後になりましたが、この本に対する誤字脱字、読みにくい、つまらない等のご指摘は、左記にお願いします。

Skype: gioseffo
Twitter: @Aki_HAGURO
メール: aki.haguro@gmail.com